



指扇中だより



= 自信と誇りに満ちた指中生 =

〒331-0078 さいたま市西区西大宮3-31-1 電話 048(624)6234 FAX048(624)2479

ホームページアドレス <http://sashiogi-j.saitama-city.ed.jp/>

さいたま市立指扇中学校 第73回卒業証書授与式 式辞

142名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

第73回 卒業証書授与式が、新型コロナウイルス感染症対策のために、内容を精選し規模を縮小しさらに時間を短くして、厳戒態勢の中、実施されることが誠に残念で仕方ありません。

しかし、このような状況の中、ささやかですが、令和初めの卒業式が出来ることの喜びと感謝の気持ちもあります。

本来なら、一人ひとりに指扇中学校の卒業証書をお渡しして、誇らしく晴れやかな表情を間近で見たかったです。しかし、卒業生の健康と安全を第一に考慮して、代表の学級委員さんに渡しました。

学級委員の皆さんは、自信と誇りに満ちた指中生としての立派な姿で、卒業証書を受け取って頂きました。本当にありがとうございます。

他の皆さんは、「ハイ」という返事と共に起立しました。三年前の入学式の返事と比べると、さぞかし立派でたくましい返事ができたと思います。私は、その入学式には残念ながら参列することができませんでした。赤学年の指扇中学校での2・3年生の学校生活の様子を思い出せば、絶対返事がよくなり大人に成長していると思います。

なぜそのように思うかという、三年生の最後の学校総合体育大会の素晴らしい成果・結果が物語っています。私は、応援をしながら、赤学年の皆さんから2つのことを学ぶことができました。

まず一つ目として、「人は負けて、さらに強くなる」ということです。なぜ負けたのだろうと悩み・苦しみます。その悔しさを乗り越えるために、よく努力します。負けをチャンスと捉え成長する素晴らしさを教えてもらいました。

もう一つは、「仲間を信頼し、先生を尊敬し、協力する」という大切さを教えてくれました。部活動には、色々な価値観を持った仲間がいます。しかし、目標は一つです。そのためには、顧問の先生の教えの元、仲間を信じ認め合わなければよい結果は望めません。この2つを見事に実践して、応援する方に感動を与えてくれました。本当にありがとう。

結びに、私から卒業生にプレゼントを差し上げます。それは、アメリカ、ニューヨークのエコデザインベンチャー企業のホルスティ社の社訓です。

THIS IS YOUR LIFE.

これはあなたの人生です。自分の人生だからこそ、自分で考え、自分で学び、自分で鍛え、情熱をもって、好きなことを思いっきり行いなさいというメッセージです。

是非、卒業式が終わりましたら、卒業生の皆さん、そして教職員の皆さんも一読して頂けると幸いです。

伝統と歴史があり、地域のシンボルである指中を卒業すること、そして卒業したことを「自信と誇り」にもって、次のステージで頑張ってください。ご活躍を期待します。

令和2年3月13日

さいたま市立指扇中学校長 青木 洋

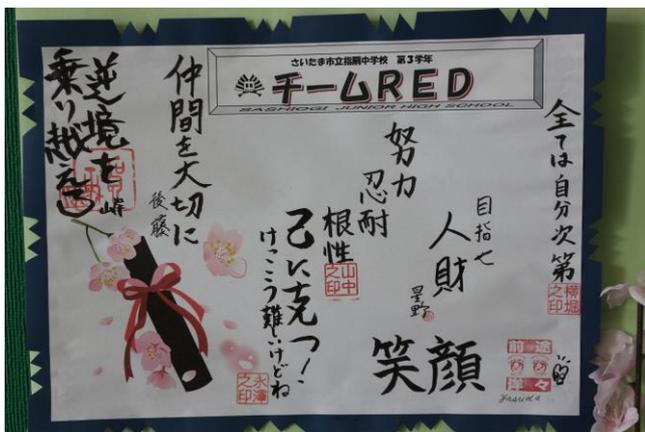
第73回卒業生の保護者の皆様、お子様のご卒業、誠にありがとうございます。

この度の新型コロナウイルス感染症拡大という前代未聞の事態となつてしまい、保護者の皆さまが卒業式に参加できず非常に残念で仕方ありません。また、赤学年142名の卒業生を地域の方々にお披露目できなかったことも本当に悔しく思っています。

このような状況のなか、さいたま市教育委員会の指導を受けながら、ささやかですが、教職員と卒業生のみで卒業式を実施できることに感謝の気持ちでいっぱいです。

142名の卒業生は、高校受験等の進路決定についても本当に頑張りました。今、出来ることを精一杯取り組んでくれました。その結果、3月9日の埼玉県の公立高校入試の発表の日に142名、全ての卒業生の進路先が決定しました。本当にありがとうございます。そして、次のステージでの活躍を楽しみにしています。

最後になりますが、本校の教職員は、このような状況でも、卒業生そして在校生のことを第一に考え、どうしたらよいか、何をしてあげられるかを常に考えてくれています。生徒の健康と安全を第一に優先させながら、教職員として学校としてできることを試行錯誤しながら生徒のために頑張りますので、保護者の皆さま・地域の方々、変わらぬご支援・ご理解・ご協力をお願いいたします。



赤学年の先生より



全教職員より



令和元年度卒業記念品

祝卒業

